

あとがき

調査にたずさわったご縁で『摂津市の民具とくらし』図録を作成させてもらうことになった。はてこれは気の重い仕事だった。

調査のあいだ中、私は“摂津市については何も知りませんから、何でもいいから教えて下さい”と聞いて回った。民具や暮らしがテーマなら、長年、摂津市域に暮らしてこられた市民の皆さんが先生であり、他所者の私は生徒に過ぎない。その生徒がこともあろうに図録作りの大役をかぶることになった。読者は市民、私が教えを請うた先生たちである。並み居る“摂津博士”たちを前に、出来の悪い学生が卒論の審査を受ける心境だった。

“摂津市の”民具とくらしなら、あくまで“この民具は摂津市では何と呼び、どう使ってきたか”の説明でなければならない。そこで一般的説明は避け証言構成の形をとった。

市民向けの図録なら読みやすくてはならない。だから見開き構成をとり、項目ごとにテーマをかかげ、2行のリードを付けた。また長い文章はアニメ世代には苦痛でしかないので、文章は簡潔にし、なるだけの確な言葉を選んで小見出しを多くつけた。

摂津市の図録の作成に他所者の関わる意味は何か。どこかに“他所者が加わったからこそ良かった”という見せ場を作らなければ意味がない。これも大きな課題だった。

「民具とくらし」となれば日常生活そのもの、そこにどっぷり浸かってこられた市民の皆さんには当たり前すぎてかえって値打ちが判らないということもあろう。はた目から見て重要なことを「大事でっせ」と騒ぎまわること、これを私の役割と位置づけた。

また摂津市域の民具や方言や暮らしのあれこれを、2000年来の歴史の中に位置づけ、中国や朝鮮の技術とも関連づけて見ること、これも歴史屋で民具屋の私の役割とした。

このたびは私の筆の進みが遅くて、関係方面の方々には随分ご迷惑をお掛けしたが、気長に(?)待っていただいたおかげで、ページごとのねらいは絞ることができたと思う。

この本はあくまで『摂津市の民具とくらしー序説』であり、将来、博物館活動の一環として定番の民具・暮らし図録が作成されることを期待したい。(執筆担当/河野通明)

本図録は摂津市域の民具・暮らし調査にもとづくものです。
農業が機械化される以前の暮らしを中心に、テーマごとに聞き取り結果をまとめました。
図版はさきに作成されていた寄贈民具の資料カードを利用いたしました。
参考図版として、大阪府立図書館蔵の『農具便利論』と「摂建国各郡農具略図」、静岡県立農業試験場所蔵の『絵本通宝志』を利用しました。
調査・編集・執筆・図版・レイアウトは神奈川大学経済学部の河野通明先生にご担当していただきました。

摂津市の民具とくらし

平成 5 年 3 月 31 日

編集 摂津市教育委員会

〒566 大阪府摂津市三島 1 丁目 1 番 1 号

TEL (06) 6383 - 1111

印刷 三菱印刷株式会社

〒652 神戸市兵庫区大開通 2 丁目 2 - 11

TEL (078) 576 - 3961 (代表)